

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2009.4.1

No.57

現在の進化論では、宇宙ができたのは今から

一五〇億年前、地球ができたのは四十六億年前とされています。しかし「創造科学」では宇宙

(空間と星々)と地球はほぼ同じ時にできたと考えます。実は、創世記一章では、創造主は「六日間」で創造の働きをなしたと言っているのです。これは突拍子もないと思われるでしょう。

でも、じっくり考えると不思議な感じがします。もし神話ならば「一瞬のうちに神が造った。」と言う方がふさわしい気がします。実際、「全知全能の神が創造されるのであれば、六日間もかかるのはおかしい。」と言っていたクリスチャンも

大昔にいたのです。現在の人々は進化論を土台にしているので途方もない長い時間をもってこなければなりません。短い期間に今ある多様な生物への進化があったとは思えないからです。

クリスチャンも進化論に影響され、意見の違いを埋めるためにいろいろな考えを聖書に持ち込みました。その一つが「一日＝一時代説」です。

この箇所「一日」というのは「何千年、何万年のこと」と考えたのです。ところが現在、創造科学者たちの大半は、この一日は、文字通りに二十四時間のことだと考えています。

理由の一つに、聖書の中での「日(ヨム)」の使用があります。どう読んでも四百以上ある

## 神話か真理か？ 創世記



ヨムは一日しか表していないのです。聖書を信じているといいながら、都合のいいところだけ言葉の解釈を変えようとするのは矛盾しています。また、はつきり次のようにモーセが神のことを記しています。

「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。」

(出エジプト記二十章八・十一節)

万物ができたのが何億年、または六日間という「進化論」「創造論」いずれも「信仰(信頼)」の問題であるということをご存知でしょうか。現在持っているデータから「過去の出来事」を信じるか、信じないかを決めなければなりません。進化論は、途方もない長い時間が偶然の進化をもたらしたと主張し、創造論は神が短時間に必然をもって創造したと主張しています。進化を再現できません。あるのは化石だけで、完全な生き物ばかり。足になりかけたひれや羽になりかけた足など、途中の過程の化石は一つもないのです。

(よく取り上げられる類人猿の骨は人か猿のどちらかなのです。一方、創造の現場を見ることもできません。結局どちらかを信じるしかないのです。創造論を語る聖書の続きをみていきましょう。)

第一日目は、先月号で述べたように、時間・空間・物質が造られ、その後光ができました。

「神は仰せられた。『光があれ。』すると光があった。」 (創世記一章三節)

この光とは、太陽の光ではありません。二つの意見があつて、一つは発光体ではなく、「光そのもの」というものです。科学用語で「光」は目に見える光だけでなく、紫外線・赤外線・エックス線や電波なども含みます。これらは有害無害を問わず、現代社会に大いに役立つものです。もう一つは、聖書の他の箇所から見て「神の栄光の光」というものです。これは光が「造られた」というよりも、光が「放たれた」というとらえたかたです。(原語の動詞に注目して解釈されたもの)ちなみに、来るべき永遠の世界(天国)では、太陽はなくなっており、太陽の光の代わりに「神の栄光の光」が輝くと黙示録に描かれています。この神の光が太陽の代わりに世界に降り注いだと思われま。

「私は新しい天と地を見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。… 都には、これを照らす太陽も月もない。… というのは神の栄光が都を照らし、小羊は都のあかりだからである。」

(黙示録二十一章一、二十三節)



聖書の最初の書、創世記には多くの始まりが、最後の黙示録には終わりが記されています。



天王寺動物園でのこと。8年前にとった写真と同じ場所、同じ格好で撮影。Rはまだ赤ちゃんでした。あっという間に、大きくなるのですね。



## こんなことしました！ 行事報告

### 三月

一日 H 十五歳誕生日

十七日 お作法教室

十九〜二十一日 B C キャンプ(少年自然の家)

二十三日 E 十一誕生日

二十四日 塗り絵・工作教室

(貼り絵をしよう)

二十六日 合同公文教室&天王寺動物園

三十〜三十一日 T 家お泊まり

## 引率の難しさ

### 天王寺動物園で思ったこと

M

「公園に行きたい」「景品がないゲームなんて嫌だ」かつて集会の日曜学校で、私は文句ばかり言っていました。最近、非常に後悔しています。

先日、総勢二十八名のホームスクーラーたちとともに、天王寺動物園に行きました。我が家から自転車なら二十分ほどで行けるこの施設に、何度足を運んだかわかりません。つまり、高校生である僕の意見としては「見飽きた」といってもおかしくはないのです！しかし……

実際、見るどころではありませんでした。動物園に着くと、いきなり「真良樹君に任せろ」と一言。いきなり、「引率者」的な立場になったわけです。(最年長なので、少しは予想していたのも事実ですが)

「団体行動？グループ別行動？どちらで動く？」さん達がいらない？」決めることは多い上に、問題が次々出現し、結構疲れました。今回の遠足を通して、「みんなの先頭に立つ難しさ」を実感し、文句ばかり言っていたかつての自分の姿を反省させられます。

普段と違う立場に立つと、違うものが見られます。確かに、もう動物園を楽しむ年齢ではなかったとしても、違う意味で、貴重なことを経験した時になったと思いました。

## 中学三年間を振り返って

H

私はもうすぐ高校生になります。中学の三年間、あっという間でしたが、いろんなことがありました。

中一の時、J C チャーチスクールでの合同公文に参加するようになりました。私はそれまで、大阪で同じ年くらいのホームスクーラーの友達がいませんでした。しかし、チャーチスクールでそのような友達がたくさんできたので、互いに励まし合いながら勉強を進めていくことができるようになりました。今年の八月に受ける高認試験も友達と一緒に、「何の教科を受けるか」などと話したりしています。このような友達を与えてくださった神様に感謝したいです。

中二の一番の思い出といえば、八月にあった仙台キャンプです。今まで行ったことのあるキャンプでは「お客さん」として参加してきましたが、そのキャンプでは「スタッフ」として参加しました。いっぱい仕事(手伝い)があり、大変でしたが、たくさんの方々と一緒に働けて良かったし、このキャンプを通して、「神さまと人に仕える喜び」を実感させられました。

中三になった時「今年こそ勉強ももっと頑張るぞ！」って思っていました。今年こそ計画通りに進みませんでした。だから今年こそは頑張りたいです。

高校三年間も、何かあるかわかりません。でも、いつも神様は私と共にいてくださる方なので、神さまに信頼しつつ、歩んでいきたいと思っています。

## 編集後記

新学年のスタートです。この一年間、何をがんばるか、どのようにがんばるか計画を立てています。暖かさも増し、早朝の朝の運動を始めた子もいます。